

## 最優秀賞

神奈川県共同募金会会長賞

あなたを見るといふこと

厚木市立林中学校

三年 奥田 萌叶

「相手のことを想って考え行動する」これはいろんな大人から言い聞かされてきた言葉だ。私達が社会で生活するためには人と関わりあつて生きていかなければならない。そのためのルールのようなものを私達は「道徳」と呼んでいる。だが、私は「本当に相手を見た相手を想つた行動」はできていないように感じる。

私は一型糖尿病を患っている。生活習慣病の方ではなく、体質的なものだと医師から教えてもらった。糖尿病とは、エネルギーを取り入れるときに使うホルモンがなくなつてしまう病気だ。完治するための治療方法としては、ホルモンを分泌する臓器の移植や、その細胞の移植。とてもすぐにできるものではない。そのため、私は注射を使いホルモンを体内に入

れてエネルギーを取り入れられるようにしている。これを聞くと大体の人が「大変だな」と感じたり「注射が痛そう」などと思うだろう。私はこの話をしたとき友人から「かわいそうだね」と言われたことがある。おそらく同情の意を込めて放った言葉だろうと今では思う。だが、当時の私は心を強く握りしめられたような気持ちになった。

私は、みんなから見ると「かわいそうな人間」になってしまったらしい。今まで私を見てきた人々の目は、日常生活に支障をきたす「障がい」によって大きく変わってしまったようだ。

私はこの「障がい」をさほど気にしていなかった。なぜなら制限されたのではなく、必要なことが増えただけだからだ。それに、悲しんでいたって治るわけではないからだ。だが、その言葉を聞いたとき、はつきりと私と世間の価値観がズレていることを知った。そして私は何と言おうが全てがまんしていると感じとられてしまうことも。障がい者はこんな気持ちなのだろうと推し量られ「型」に入れられてしまうことも。さらに、これらは全て「障がい」という一部分を見て「私」のことは一切、見られていないことも。私はここで初めて、健常者との身体的な差だけではなく価値観などの精神面でも大きな差があることを知った。

だが、今一度考え直してほしい。確かに私は気をつけなければならぬことが増えた。だが「私らしさ」を形成するものは変わったのだろうか。否、変わっていないのだ。

障がいを持った人に対してどう声をかけたら良いのか、それは私も分からない。人の感情は、人それぞれの個性なのだ。でも、その人自身を見ず「障がい」という特徴に限定して言葉をかけるのは相手を見れていない証拠だ。その人にはその人にしかない何かを必ず持っている

から。

私達が学んできた「相手を想って考え行動する。」あなたは一体、相手の何を見て、思い行動してきたのだろうか。今、障がいを背負う身となった私は、周りの目の変化に気づいた。私という個性は何も変わっていないのにだ。大体、このような内容を取り上げると優しい言葉、対応の大切さを教えられることが多い。それも大切なのだが、価値観などの差については、あまり取り上げられないように思う。私達は助けられることが多いかもしれない。でも、決して助けられないわけではないのだ。

どんな状況になっても変わらない「相手への思い」を持つ。そのためには「障がい」という表面的なものに惑わされずその人自身を見ることが大切なのだ。そして、それこそが今、私達ができる「相手を想った行動」第一歩なのかもしれない。